

仰げば尊し

(作曲者・作詞者 不明)

一

仰げば 尊し 我が師の恩

教えの庭にも 早幾年

思えば いと疾し この年月

今こそ 別れめ いざさらば

教えを受けた先生方のご恩は、ありがたく、感謝でいっぱいです。お世話になった人々（父、母、塾の先生、水泳のコーチなど）へもほんとうにありがとう、感謝の気持ちでいっぱいです。学校生活も早いもので、あっという間に卒業の時期となってしまいました。ここまで育ててくれたご恩は、忘れることができません。思えば、この年月（学校生活）の時間のすぎりは、まことに速く感じます。

今、いよいよ別れのとかが来ました。別れはつらい。お名残り惜しい。先生、親友、級友、教室、校舎、運動場よ、さようなら。

二

互いに睦みし 日頃の恩

別るる後にも 八代 忘るな

身を立て 名をあげ 八代 励めよ

今こそ 別れめ いざさらば

互いに親しくお付き合いしてくれて、親身にお世話いただいた人々から受けた温かく深い愛情、ご恩は忘れることはできません。別れたあとも、このご恩は、ずっとずっと忘れないようにしましょう。昔風にいえば、立身出世せよ、今風にいえば、人のため、世のためにつくす人間になろう。そのように努力を重ねて人間をみがこう。りっぱな人格、尊敬される人間になろう。いつまでもそう努力しよう。今、とうとう別れのとかが来た。名残惜しいが、別れていかねばならない。先生、親友、級友、教室、校舎、運動場よ、さようなら。

三

朝夕 慣れにし 学びの窓

蛍の灯火 積む白雪

忘るる 間ぞなき ゆく年月

今こそ 別れめ いざさらば

朝から夕方まで慣れ親しんできた学校（教室・図工室・理科室・音楽室・保健室・体育館・運動場）とも、いよいよお別れだ。昔の人は、蛍の光や雪明りで熱心に勉強したというが、今の私たちも一生けんめいに勉強してきたつもりだ。みんなで協力し合い、励まし合ってきたクラブ活動や係活動、ほんとうに楽しかった。過ぎ去った楽しい学校生活の思い出は数かぎりなくある。今後、ずっとずっと何年もすぎさったとしても、忘れることはできないだろう。今、涙にむせびつつ別れていかねばならないとかが、とうとうやって来てしまった。さようなら。さようなら。さようなら。